

第36号について

会長 清水 裕子

2024年1月1日、能登半島地震が発生しました。

元旦の夕べ、故郷での慶びの集いが、一瞬にして崩壊し、多くの愛する命が亡くなりました。

妻や幼い子供たちを失った男性に、明日の希望が見いだせるのでしょうか。長年の伴走者であった妻や次世代を託した息子を亡くした男性は、残された人生で何を頼りにするのでしょうか。このようなときでも、「主は沈黙のうちにそばにおられる」。

会員の皆様は、2011年の東日本大震災、熊本地震を思い起こされたことでしょうか。

東日本大震災後にカリタス南相馬で活動をされた本会会員が、再び、カリタスのとサポートセンターで活動を始められました。

カリタス南相馬所長であり、本会仙台副支部長の南原（新姓根本）摩利さんからのレポートが、古閑仙台支部長からのご紹介とともに、送られてきました。皆様に現状をご理解頂きたいとのご希望です。2月4日付カトリック新聞にも南原さんの現地レポートから記事が掲載されましたが、この度、本レター宛に記事をいただきましたので、皆様にお知らせいたします。現地に赴けない私たちができること、そして祈りをどうぞ、よろしく願いいたします。

◆カリタスのとサポートセンター支援のご報告

JCNA 仙台副支部長 南原 摩利

（カリタス南相馬所長として、カリタスのとサポートセンターを支援され始めたばかりの様子をレポートいただきました。）

2024年1月27日（土）

○輪島地区の視察（写真参照）

2週間前に視察したスタッフの話によれば、道路状況は、徐々に回復しているとのことだったが、路面には段差もあり、徐行が必要な箇所ではかなり渋滞した。一般ボランティアを制限しているのは、緊急車両が通れるよう、渋滞回避のためとのことなので、石川県の地理と道路状況を考えるとやむを得ない状況と思った。視察の過程では、家屋が崩れ、山崩れの箇所もあり、運転もかなり注意が必要であった。輪島市内に入ってから、景色が一変した。全壊、半壊の被災家屋が続いた。

○輪島避難所（輪島市立輪島中学校）

訪問者は、カリタスのとサポートセンター長の片岡神父はじめフィリピン人の司祭と聖霊会のシスターに南原が同行した。避難生活をされているフィリピン人女性信者6名と避難所内で会った後、日本人信者の個人宅も訪問した。

避難所はとても寒く、テントよりも段ボールの囲いの方が温かいので申請中の方もおられた。お二人の神父のご訪問で涙される信者の方もあり、司祭の訪問は大変喜ばれた。看護師（南原）も同行したので健康状態もうかがった。避難所の方の中には喉の痛みや下痢症状をもつ方もあったが、薬を内服して治まっているとのことであった。その方々は、発熱もない様子であったので、ご様子を見て頂くこととした。

（次回訪問の際、司祭からのど飴をお渡しいただいた。）

1月28日（日）

○「じんのび（のんびりの意の方言）食堂」開催（七尾市聖母幼稚園）

聖母幼稚園到着後、スタッフと金沢教会のベトナム人信者方とでテントを設置し、炊き出し準備を行った。

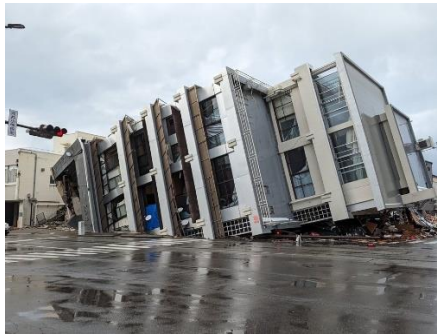
午前10時から七尾教会でのミサに参加し、ミサ後、「じんのび食堂」を開催した（会場11時半～16時）。幼稚園児の家族や通りがかりの方、地域の方々など、約70名が参加された。

参加者の声には、「温かい食事は嬉しい。毎日水汲みと洗濯に追われていたけど、気分転換ができた。」「いつも一人でいるから一緒にゆっくりお話ししながら食べられて楽しかった。」「新しく予定ができるって何か楽しみが増えたような気がします。すごく気分転換になりました。来週も来ます。」、また、「参加者の中で交通事故の後遺症で左上下肢の痺れと冷感がある」と話された方がおられたので受診を勧めた。

以下、現地でのカリタスのとサポートセンタースタッフによる撮影写真である。



【視察の道中の被災の様子】火災跡



倒壊した建物



路面の凹凸



浮き上がったマンホール



【生活用水の調達・配布】



生活用水を配布



【炊き出し】じんのび食堂



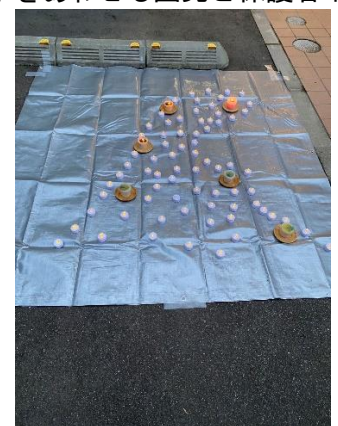
追悼の祈りの中で手をあわせる園児と保護者↑



炊き出しの準備



【被災の方々への祈りの時間】被災地図と灯火



皇今のところ辞任はない ポリネシア訪問を予定

「幼稚園の保護者や地域の方が温かい食事を食べながら、ゆとり交流する場」として行われた。食堂のようないイメージを想定し、活動は「じんのび食堂」と名づけられた。「じんのび」とは七尾の方言で「のんびり」という意味。当日は雨穴にもかかわらず

わらず、園児やその家族、卒園生、地域のボランティア約130人が訪れた。七尾市では被災後3

週間が過ぎても断水が続く。訪れた人たちは、家庭の洗い物を減らすためにバケツやカップに水をため、手作りの温かい食事には「おいしい」と感じたと話す。

「た」という感想が聞かれた。片岡神父は「地震から3週間がたっても、被災した人たちの生活はほとんど変わっていない」と話す。



1月21日、七尾教会に隣接する聖母幼稚園駐車場で行った、カリタスのとサポートセンター主催の炊き出し「じんのび食堂」。地域にも呼びかけ、約130人が訪れた。

七尾市の幼稚園で炊き出し 温かい食事と交流の場提供

名古屋教区カリタスのとサポートセンター始動

石川県

水の調達に苦慮している。のサポートセンターでは、生活用水と飲料水が確保できるよう、ウォーターサーバー提供などの支援を決定した。北部の輪島市にもカトリックの認定子ども園「海の星幼稚園」があり、同センターでは物資や水の支援を行っていく予定だ。

「1・17 追悼と新生の祈りinたかとり」 能登半島被災者と共に

神戸・たかとり教会

6434人が犠牲となった阪神淡路大震災（1995年）から29年目の1月17日、今年も午前5時半から、17追悼と新生の祈りin「たかとり」が神戸市長田区のたかとり教会で行われた。被災当時、鷹取教会



（現たかとり教会の主任司祭だ）たかとり教会の神父ら大阪高松教区の司祭や僧侶のほか、同教会信徒や震災ボランティア、近隣住民ら約60人が、今年元日に発生した能登半島地震の被災者にも心を寄せて祈りをささげた。聖歌や聖書朗読の後、神田神父は「神戸



カトリック新聞社
〒135-8585 東京都江東区亀見 2丁目10番10号
電話 (03) 5632-4432(代表)
(03) 5632-4433(編集)
(03) 5632-4434(広告)
FAX (03) 5632-7030
振替口座00170-4-196983番
Eメール 購読kokoku@cwjpn.com
広告kokoku@cwjpn.com
URL www.cwjpn.com / cwjpn.jp
©カトリック新聞社 2024
完備1部 165円(本体 150円)
予約購読料金(国内)
1年(48回)9936円 税・送料込
半年(24回)4968円 税・送料込

カトリック 火災共済制度

カトリック中央協議会
救済基金を助成し、被災者への支援を行います。

0120-77-0033
www.calis.co.jp
E-mail info@calis.jp

【被災地への寄付募集】

現在、本会では、能登半島地震災害のための寄付を受け付けています。http://jcna.info/donation.html
次年度会費と共に、支部ごとにとりまとめをいただき、ご送付頂いても結構です。その際は、本部会計、会費送付先口座へご送付ください。支援募金は、本会本部から「カトリック名古屋司教区」および「カリタスジャパン」を通して、被災された方々のために活用されます。

お忘れになった方は、個人的にでも結構です。その際は、本会ホームページ寄付受付口座へお振込みください。寄付口座への振り込みには、送金者氏名欄に「ノト〇（〇は支部名の頭文字：東京支部の場合は「東」、札幌支部は「札」etc）フルネーム氏名」とご記入ください。例：高松支部清水裕子の振り込みの場合は、振込者氏名は「ノト高 清水裕子」となります。

※振込取扱票の場合は、送金者の電話番号、メールアドレスをご記入ください。
※インターネットバンキングの場合は、こちらのフォームより送金者の電話番号、メールアドレスのご記入をお願いいたします。インターネットバンキングの場合の送信記録入力フォーム⇒https://x.gd/haDTK



左写真は、左からリポートをくださった南原さん、中央は南原さんを訪ねて下さったカリタス南相馬ボランティアゆかりの七尾市住民の方です。水汲みで疲れているとおっしゃっての訪問で、ひと時の分かち合いをされたそうです。
季節は移りつつありますが、感染症や体調不良、寒暖の差や環境の問題など、まだまだ生活の安定のためには、遠い道のりのようです。厳しい中で一足先に情報を届けて下さった南原さんへの感謝と奉仕者の皆様方の健康を祈ります。(編集)

発行日	2024年2月13日(火曜日)	発行責任者	清水 裕子
編集	日本カトリック看護協会本部	創刊年	1957(昭和32)年